

戦後80年のいま平和について考える

～新たな争いを生まないために～

戦争は、最大の人権侵害であると言われています。今もなお世界のどこかで、戦争や紛争が繰り返されており、多くの命が失われています。

新たな争いを生まないために、私たちはどのような意識を持つべきでしょうか。大阪における平和の情報発信基地である「ピースおおさか」(大阪国際平和センター)で館長を務める片山靖隆氏に、お話を伺いました。



Q1

「ピースおおさか」とはどのような施設で、どのようなものを展示しているのでしょうか。

大阪大空襲を中心に、当時の人々の戦争体験について展示などを行い、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代に伝えていくための施設です。

展示については、大阪大空襲を中心とした「常設展示」と、海外のことがらなども含めて幅広く取り上げる「特別展示」の二種類があります。

常設展示については、子どもたちに分かるように、ということを主眼に置いています。例えば、当時の様子を再現

した防空壕に入ることができる体験型の展示や、プロジェクトマップを使って大阪大空襲の様子を解説するなど、子どもたちに関心を持ってもらえればという思いで展示を行っています。

関心を持つことができれば、そこからは自分でいろんなものを探して学習や研究をしていけると思います。

今年は戦後80年という節目の年にあたりますし、ぜひ一度ピースおおさかへ足を運んでいただければと思います。

Q2

館長となられてからは、それまで以上に戦争に関することを見聞きされたと思うのですが、その中でも印象に残っていることはありますか？

館長になるまでは、教科書や映画、小説などを通じて歴史的な事実として知っていることはありましたが、実際に体験された方の話を伺ったり書かれた物を読んだりして、それまではぼんやりとしていたものが、より生々しいというか鮮明に感じられるようになりました。

例えば、空襲を体験された方から聞いた話では、自分の家の屋根の上を焼夷弾が転がっていく、「カラカラ、カラカラカラ」という音が聞こえたかと思ったら、回り一面がもう火の海になっていた、といったような。体験者の方のお話聞いただけでも「怖いな」と感じましたが、実際に体験されたご自身は、もっと恐ろしかったんだろうと思います。

そういったことを見聞きした経験からいうと、戦争について知識としては知っていて、「戦争は良くない」ということを

頭では分かってるっていう段階から、戦争というものを少しでも身近に、自分事として感じられるような人をちょっとでも増やしていく。それがピースおおさかの役割のひとつだと思っています。

その他では、ある体験者の方が、中学生を相手に自分の体験を話した後で、「戦争をなくしたり、平和にするためにどういうことをしたらいいと思う？」って聞いたんですね。そしたら、子どもたちが話し合いをして、「知ること」、「話し合うこと」、「伝えること」、「忘れないこと」って答えたんです。

私たちはよく「戦争体験を風化させない」って言いますが、子どもたちの方が、心に響く言い方をするなって感じたことがあって、それすごく印象に残っています。